

大津のことがもっと好きになる情報誌

おおづ



今月のみどころ

いじめ根絶月間

「つながる“わ”心のきずなをふかめよう」

各中学校でのいじめに対する取り組みをご紹介します

まちおこし大学 人づくり学部学科生募集

クローズアップ大津人

中村里美さん

Proud!
Japan

東日本大震災の復興を支援しよう

泥だらけって気持ちいい!!

7
JULY 2012

Public relations
OZU TOWN



造形教室での一コマ。さまざまなアドバイスをしながら、子どもたちの自由な発想を形にする手伝いをする。

広報 おおづ 2012 7

発行・編集 大津市・企画課
〒869-1292 熊本地場 池部大字大字 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 印刷センター印刷株式会社
※ 印刷料が7500円に達しない場合は定額7500円を定めています。

UD
FONT
鳥やまぐらめまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



地域の、おせっかいなおばちゃんであり続けたい

なかむらさとみ
中村里美さん(室)

教育支援センターのスマイルプロデューサー、工作・絵画教室の講師、地域コーディネーターなどの顔を持つ中村里美さん。まるでパッチワークのように時間の隙間を埋めながら毎日のスケジュールを組んでいる彼女は、多忙だがとても充実した日々を送っている。今回は、そんな中村さんにクローズアップする。

子どもたちと接する機会が多い中村さんは、「同じことを楽しむ仲間として子どもと接したい」という思いを持っている。「子どもと同じ立場に立って接することで気付くこともたくさんあります。焦ったりドタバタしたりする姿をさらけ出していると、子どもたちも親しみを持って接して来る気になりますよ」と笑って話す。

ある日、中村さんの工作・絵画教室に通う男の子が、デッサンに集中している時の感覚を「気持ちいい」と言った。絵を描くことを通じて、想像のような体験をしているのかもしれないと中村さんは考えている。そういった経験は、考えたり感じたりするときの肥やしになる。心を耕すためには、絵画や音楽などの芸術に触れることが非常に重要なのだ。

中村さんには、子どもに幸せで温かい環境に「いつほい」といって願いがあふれる。もちろん、地域の子どもたちに対して抱く願いも同じだ。「地域のつながりがあり、温かな周りの目があれば、たとえ後ろめたいことをしようとしても、思うことをあることもあるのではないかと思っています」と中村さんは言う。

中村さんはこれからも子どもたちと関わり、地域の「お節介なおばちゃん」であり続ける。

こゝろの声

▼5月末に広報の研修で京都に行きました。広報を作るためのノウハウなどを学ぶことができたのはもちろん、他県の広報担当者とお会いしているような話をすることもできました。今後は、研修で学んだことを生かし、分かりやすく、見やすく、魅力的な広報を作れるように頑張りたいと思います。(1S)

▼「一人一人を大切にすること」。今ご紹介した大津中、大津北中の取り組みに共通したテーマでした。簡単なようで難しいことです。生徒会を中心にさまざまな取り組みが行われていますが、大人の私たちも考えていかなければならないことだと教えられた気がします。まずは、身近な人を大切にすることが改めて考えてみようと思います。(S-1)